

ほたるっ子

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~



磐梯第一小学校
学校だより

NO. 11

R4. 5. 10

(文責:校長 菅家 篤)

運動会に想う…

運動会のシーズンになると想うことがあります。

「子どもの頃の運動会の思い出は？」

と聞かれた人の表情は、二つに分かれるはずです。

「待ってました」と、ニコリ微笑む人。

目を伏せて、ため息をついてしまう人。

言うまでもなく、子ども時代の運動会の思い出と重なり合っています。

そしてもちろん、現代の子どもたちに聞いても、同じように反応は二つに分かれるでしょう。

タイプによって明暗くっきり。足の速い子は“明”で、そうでない子は“暗”。

でも、今どきの運動会には、明暗のコントラストをひどく嫌っているものもあるようです。例えば、「順位をつけないために、みんなで手をつないで走るかけっこ」等です。以前、様々なメディアで取り上げられ話題となりました。運動会の一部の種目が悪者扱いされているような気がします。

明暗のコントラストがつくのは、“教育的”に好ましくないというのです。

“明”の子どもを消すことで、みんなを同じグレーゾーンの明るさにしようとするのは、本当に教育的なのでしょうか。

子どもたちの学校生活は、“明”一色でもなければ、“暗”一色でもありません。

明るく輝く時もあれば暗く沈む時もある、その繰り返して日々を過ごしています。

時間割によって、一日が、「明・明・暗・明・暗」の子もいれば、「暗・明・明・暗・明」の子もいます。そういうことが“生きる”ことなのではないか、と思います。

文部科学省の体力・運動能力調査の結果から、子どもたちの「握力」について、こんな結果が出ているので紹介します。1975年の高校3年生男子は約46kgあったのですが、2016年には約42kgに減っています。物をギュッとつかむ力が今の子どもたちは低下しているのです。これは、何とも意味深いことです。それは、単に筋力の話ではなくて、何かを求め、獲得し、力強くつかもうとする意志の低下をも象徴しているのかもしれない。悔しさに拳(こぶし)をギュッと握りしめることも、“勝ち負け”をなくされてしまっただけのことなのだけれどなあ…と思うのです。

今年も全国のどこかの学校で、手をつないでゴールするかけっこの光景が見られるかもしれません。周囲と足並みを合わせるためにつなぐ手を、子どもたちはギュッと握りしめているのでしょうか…。

磐梯一小的運動会は、喜びも悔しさも味わえる運動会です。歯を食いしばり、拳をギュッと握りしめてゴールをめざす子どもたちに、どうぞ大きな声援をお願いいたします！



【ゴールを目指してカー一杯走る子どもたち】



P T A 奉仕作業、お世話になりました！

7日(土)の奉仕作業では、早朝から大勢の皆様にご協力をいただき、校庭の除草、窓ふきを行っていただきました。おかげさまで、きれいな環境が整い、気持ちよく運動会を迎えられそうです。

学校に対する温かいご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

